

# 島 泉 南 遺 跡

2008年3月

大阪府教育委員会



# 島 泉 南 遺 跡

2008年3月

大阪府教育委員会

## はじめに

島泉南遺跡は、羽曳野市島泉9丁目にひろがる遺跡です。これまでの発掘調査では、奈良時代から中世の集落跡が見つかっています。

大阪府教育委員会では、一般府道島泉伊賀線歩道整備工事に先立ち、平成18年度に発掘調査を実施しました。その結果、古墳時代の溝、平安時代から鎌倉時代の集落跡が見つかり、須恵器、土師器、瓦器などの遺物が多数出土しました。

このような島泉南遺跡の調査成果は、南河内の歴史を解明する上で、とても貴重な資料になります。

最後になりましたが、発掘調査の実施にご協力を頂きました地元の皆様ならびに関係機関に深く感謝いたします。今後とも、文化財保護行政に一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

大阪府教育委員会事務局  
文化財保護課長 富尾昌秀

## 例 言

1. 本書は、大阪府都市整備部から依頼を受け、大阪府教育委員会が実施した一般府道島泉伊賀線歩道整備工事に伴う島泉南遺跡の発掘調査報告書（調査番号06058）である。
2. 現地調査は、文化財保護課調査第二グループ主査小山田宏一が担当し、平成19年1月から2月に実施した。遺物整理は、調査管理グループ主査三宅正浩・技師藤田道子を担当者として実施した。
3. 遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託して実施した。
4. 現地調査、報告書作成にあたって、以下の方々、機関からご指導、ご助言、ご協力をいただきました。記して感謝致します（五十音順 敬称略）。  
河内一浩 森村健一 吉澤則男 羽曳野市教育委員会
5. 本書の執筆・編集は小山田がおこなった。
6. 発掘調査・遺物整理ならびに本書の作成に要した経費はすべて、大阪府都市整備部が負担した。
7. 本報告書は300部作成し、一部あたりの単価は333円である。

## 凡 例

1. 本文・挿図に用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.値）、座標値は世界測地系平面直角座標（第VI系）である。方位は座標北を示す。
2. 挿図と写真図版の遺物番号は共通する。

## 本文目次

第1章	はじめに	1
第2章	基本層序	2
第3章	遺構と遺物	3
第4章	まとめ	3

## 挿図目次

第1図	地形分類図
第2図	周辺の遺跡
第3図	調査区位置図
第4図	柱状図
第5図	遺構平面図
第6図	溝01の須恵器
第7図	溝01出土土器
第8図	遺構面・溝・土坑・柱穴出土土器

## 写真図版目次

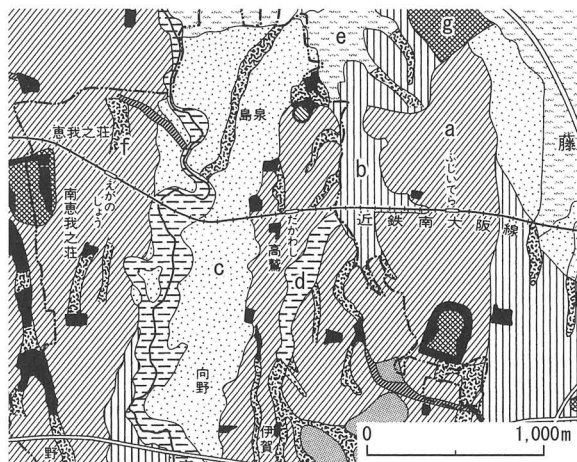
図版1	遺構
図版2	溝01遺物出土状況
図版3	出土遺物（1）
図版4	出土遺物（2）
図版5	出土遺物（3）

## 第1章 はじめに (第1～3図)

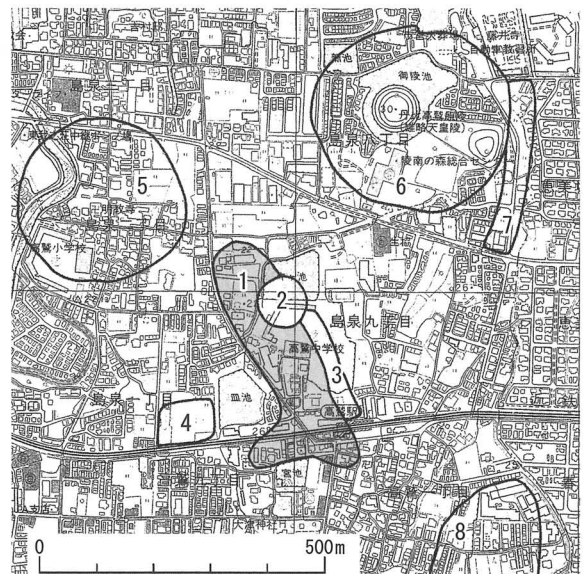
発掘調査は、一般府道島泉伊賀線交通安全施設等整備事業（歩道整備工事）に先立ち、平成19年1～2月に実施した。調査地点は羽曳野市島泉9丁目、近鉄南大阪線高鷲駅西50mにある踏切の北側である。調査面積は約40㎡。

島泉南遺跡は東除川右岸中位段丘に立地して、北・西の沖積段丘、東の開析谷に向かって緩やかに下る地勢にある。調査地点の標高は27.5mである。

調査地点の北は、「古市大溝」として、羽曳野市教育委員会が発掘調査をしている。平成9年度調査では、大溝状凹地の肩が検出され埋土から埴輪片や槽が出土した（羽曳野市教育委員会2001）。平成11年度の調査では、攪乱の著しい調査区5を除いて、調査区1で開析谷を利用した溜池と大溝状凹地、調査区2で中世の包含層と埴輪片や古墳時代の須恵器が出土する溝、調査区3で中世の包含層、調査区4で12～13世紀の包含層・溝・柱穴が検出された。



第1図 地形分類図

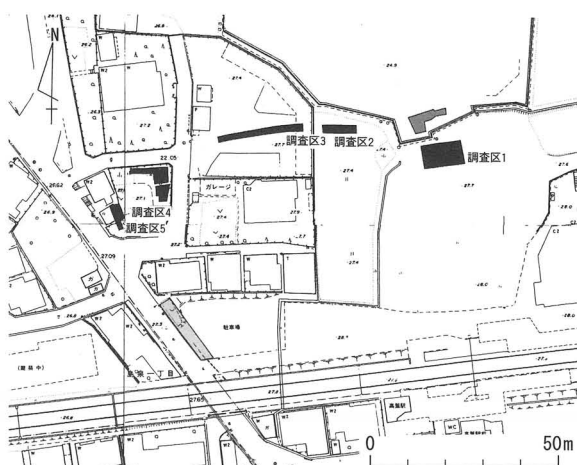


第2図 周辺の遺跡

- 図1 a 中位段丘 b 低位段丘  
c 沖積段丘 d 谷底平野  
e 氾濫原 f 段丘上の凹地（自然）

- 図2 ■ 羽曳野市教委H11年度調査  
■ 羽曳野市教委H19年度調査  
■ 報告する調査区

- 図3 1 島泉南遺跡 2 島泉九丁目散布地  
3 古市大溝 4 高鷲北宮遺跡  
5 明教寺跡 6 丸山・平塚古墳  
7 陵東遺跡 8 高鷲遺跡



第3図 調査区位置図

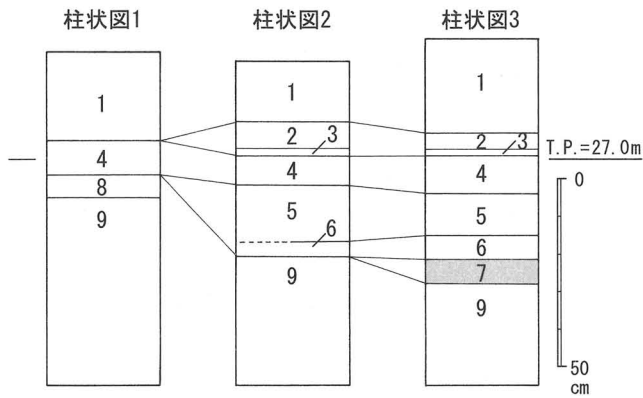


図4

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 盛土            | 6 灰黄褐色砂質土 (作土4) |
| 2 暗灰色砂質土 (作土1)  | 7 黄褐色砂質土 (作土5)  |
| 3 作土1のすき床       | 8 褐色砂質土 (整地土)   |
| 4 灰黄褐色砂質土 (作土2) | 地山土ブロック混じり      |
| 5 褐灰色砂質土 (作土3)  | 9 黄橙色粘性土 (地山)   |
|                 | 地山土ブロック混じり      |

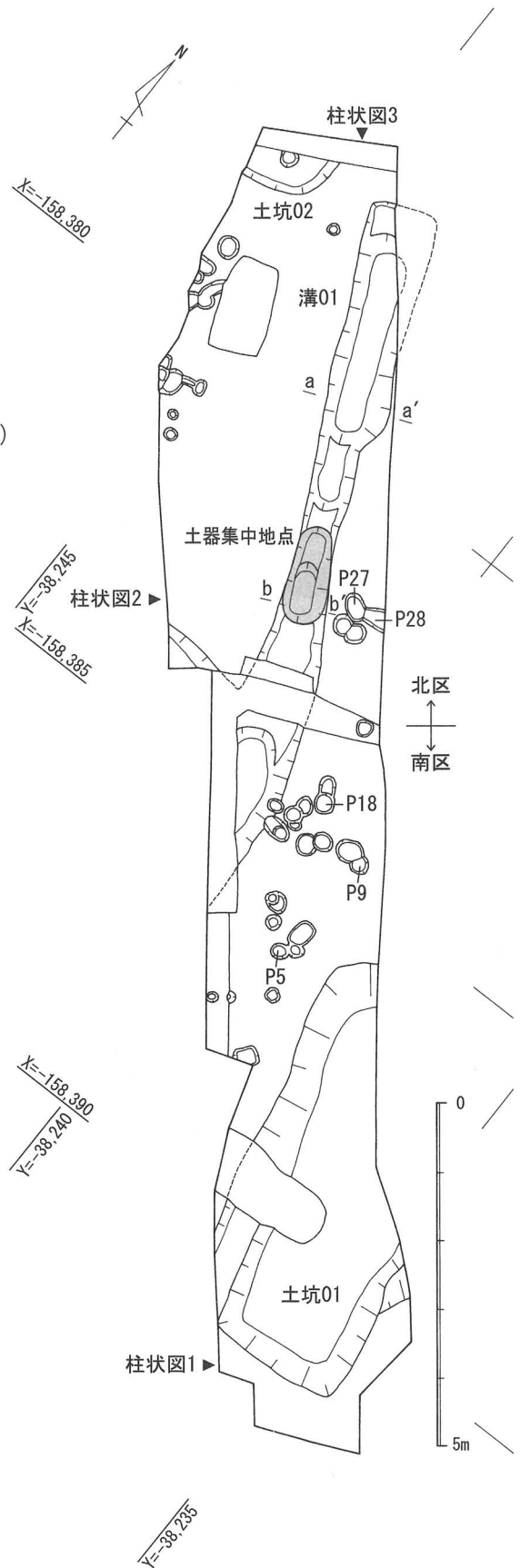
第4図 柱状図

## 第2章 基本層序 (第4図)

上層から盛土 (1層)、作土1~5 (2~7層)、地山土ブロックと炭が混じる整地土 (8層)、地山 (9層) となる。地山は砂礫がブロック状に挟まる黄橙色の粘性土で、この上面で古墳時代と古代末~中世初頭の集落遺構を検出した。

作土層は5枚ある。最上層の作土1は駐車場造成時の盛土下にあり、最近まで使用されていたものである。最下層の作土5は古代末~中世初頭の集落が廃絶した後に形成されたもので、近辺の段丘開発の年代を知る手がかりになる。

作土の生成は客土によるもので、作土3は母材の地山土がブロック状に残る。古墳時代溝01の西側は一段低くなり、作土3・4・5がみられる (柱状図2・3)。しかしこれらの作土層は溝01の東にはなく、微地形に由来する段差を解消し平坦面を拡張した作土2の段階で攪拌され消失したのであろう (柱状図1)。



第5図 遺構平面図



### 第3章 遺構と遺物 (第5～8図、図版1～5)

東にある駐車場の入り口を確保するため調査区を北区と南区にわけて実施した。

地山直上で、古墳時代と古代末～中世初頭の遺構を検出した。

古墳時代 溝01がある。溝01は東壁付近に北端があり、西壁付近で東に曲がる区画溝である。溝底の高さは一様でなく、東壁付近と西壁付近は土坑状に深くなり(深さ0.5m)、地山ブロック土混じりの黄褐色土で埋められていた。一方、その間は一段高くなり(深さ0.25m)、炭混じり黒褐色土から須恵器・土師器がまとまって出土した。特に須恵器は一箇所にとまるが、不自然に重なっているため、原位置を保っていないと判断される。

須恵器は杯蓋4点(9～12)、杯身10点(1～8、13・14)、高坏2点(15・16)、土師器は甕(17・18)、大形口縁壺(19～21)の他、図化できなかったが小形直口壺1点(第6図a)、甕2点(第6図b・c)、高坏1点がある。須恵器はTK216型式併行、土師器は布留式の特徴があり、いずれも5世紀前半の資料である。

古代末～中世初頭 柱穴と土坑がある。柱穴は調査区の中央と北西部にとまる。柱穴は堀形が径0.2～0.3m、深さ0.25～0.30mの規模が中心である。多くは柱が抜き取られ地山ブロックと炭が混じる灰黄色土で埋められていた。

柱穴からは、土師器小皿(24/P27、25/P5)、瓦器碗(22/P18、23/P27、27/P28)、瓦質埴(30/P18)などが出土した。これらのうち、P5とP27の土師器小皿は柱を抜き取った後に意図的に伏せて置かれていた。

土坑は2基ある。調査区南端の土坑01、北端の土坑02である。土坑01は6×3mの隅丸長方形で、深さ0.3mである。埋土は地山ブロックが混じる褐色粘性土で、黒色土器(27)、土師器小皿(1～10、16、17)、瓦器小皿(11)、瓦器碗(12～14)、白磁碗(18～19)、瓦(28、29)の他、埴輪片が1点出土した。土坑02は落ち込み状で、遺物は出土しなかった。

遺構面直上の整地土から出土した資料に羽釜(21)がある。土坑01、柱穴出土の黒色土器は内黒で内外面にヘラ磨きがあり、11世紀代の特徴をしめす(橋本久和1986)。同じく瓦器碗は和泉型で12世紀中葉である(尾上実、森島康雄・近江俊秀1995)。土坑01出土の白磁碗(18・19)は、閩南沿海窯系白磁玉縁碗Ⅱ類、13世紀第1四半期である(森村2006)。

出土遺物の年代幅からみて、集落は11世紀～13世紀初等頃に営まれていたと考えられる。

### 第4章 まとめ

古墳時代中期と古代末～中世初頭の遺構・遺物を検出した。

①羽曳野市教委平成11年度調査区に引き続き今回の調査でも、埴輪片が出土した。近辺には中世の段丘開発で削平を受けた古墳の存在が予測される。ただし本調査で須恵器・土師器がまとまって出土した溝01は、形状からみて、墳丘を画する溝になる可能性は低いものと思われる。

②11世紀～13世紀にかけて営まれた集落跡を検出した。遺構の密集度が低く、集落の中心ではない。集落は13世紀初頭頃に廃絶し、その後は耕作地にかわった。調査区が狭く今後に期するところが大きい。この13世紀は近辺における灌漑施設（溜池）の整備、集落の再編成をともなう中世段丘開発の画期になるのであろう。

#### 図の出典

第1図 羽曳野市1997『羽曳野市史』第1巻本文編1、図11「羽曳野市域の地形分類図」を一部改変。

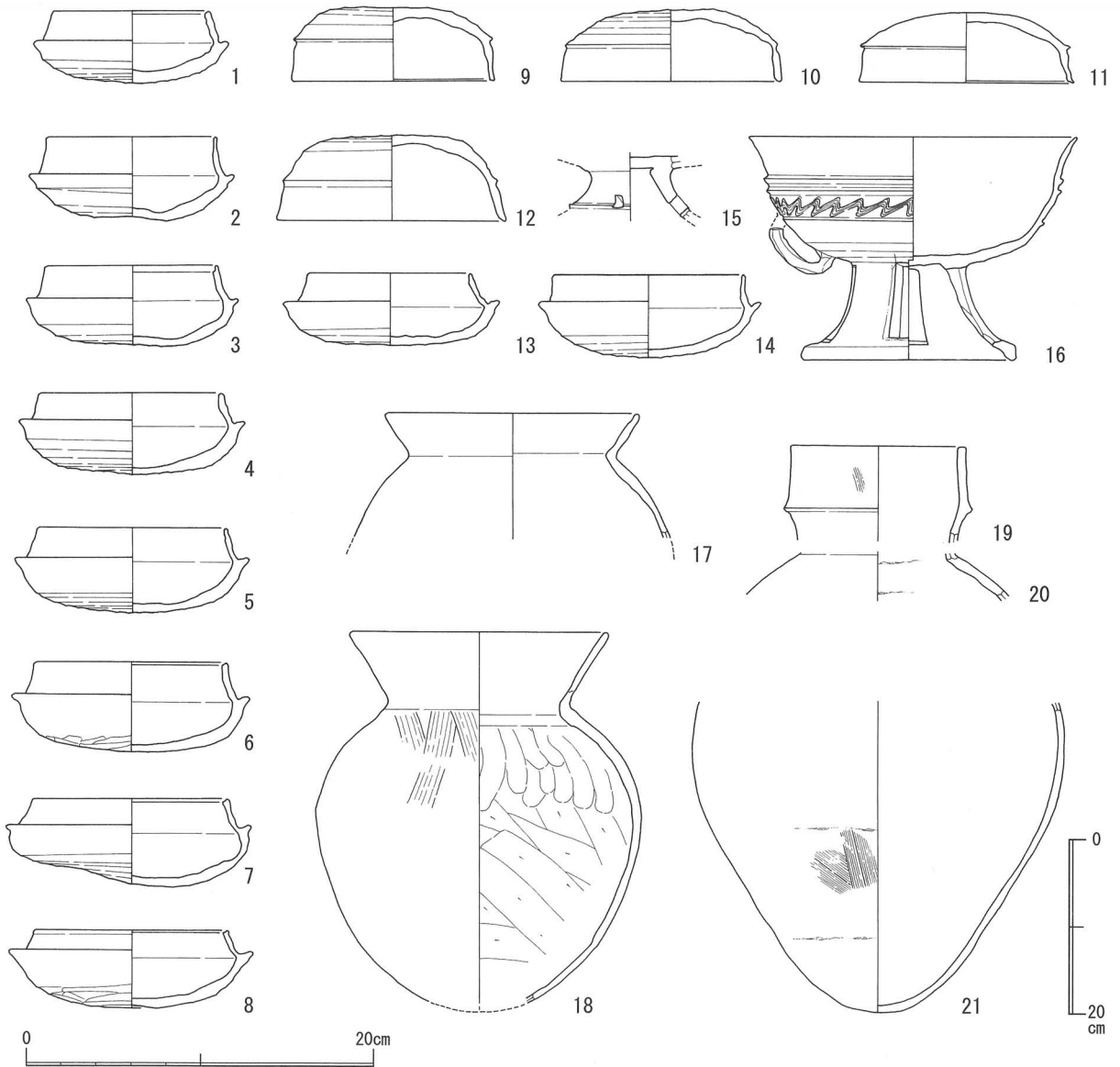
第2図 羽曳野市教育委員会2002「古市大溝跡」『羽曳野市内遺跡調査報告書—平成11年度』羽曳野市埋蔵文化財調査報告書、図23を一部改変。

#### 引用文献

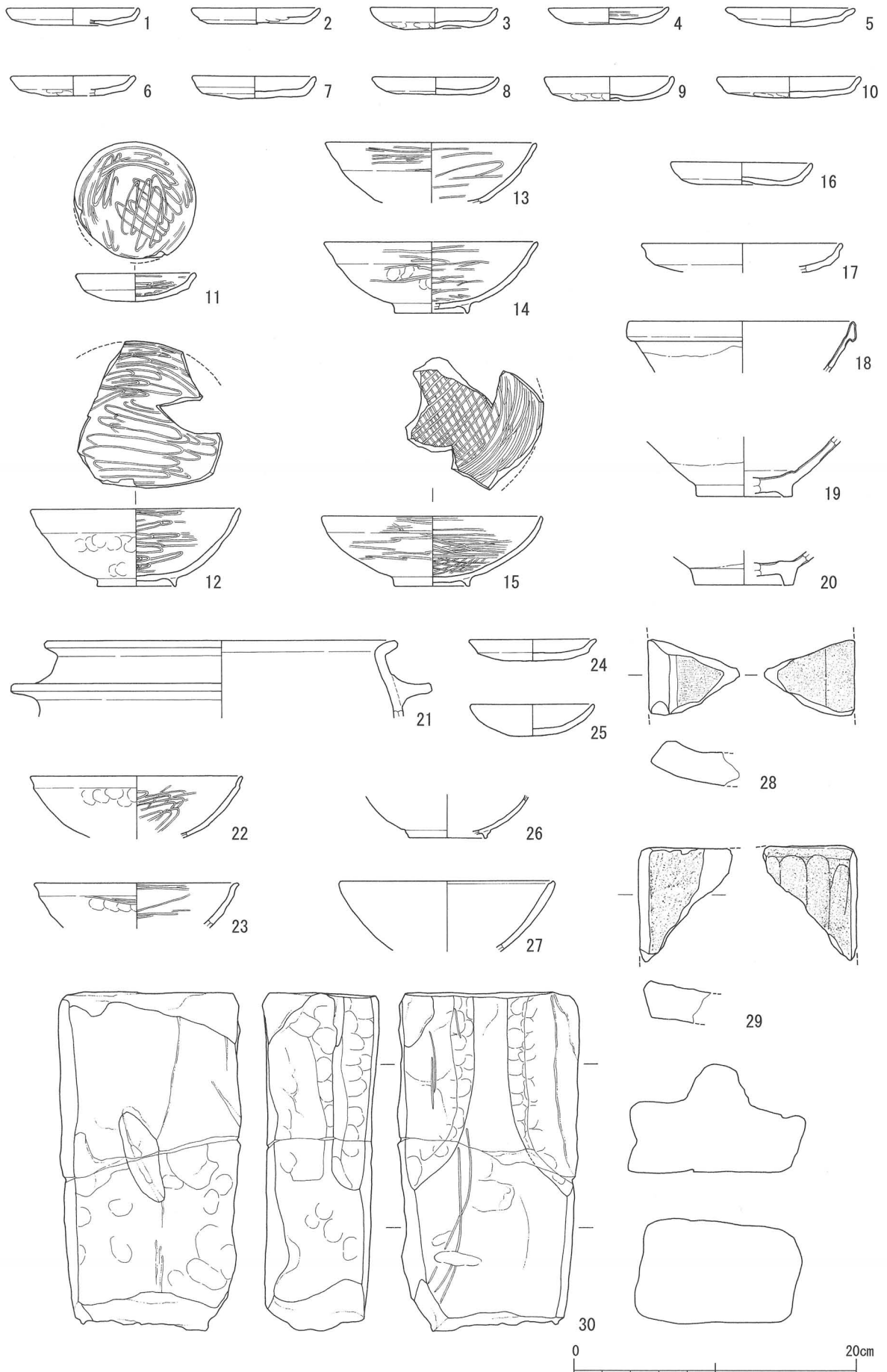
- ・尾上実、森島康雄、大見俊秀1995「瓦器椀」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- ・橋本和久1986「畿内の黒色土器（1）」『中近世土器の基礎的研究』Ⅱ
- ・羽曳野市教育委員会2001「古市大溝跡」『羽曳野市内遺跡調査報告書—平成91年度』羽曳野市埋蔵文化財調査報告書41
- ・羽曳野市教育委員会2002「古市大溝跡」『羽曳野市内遺跡調査報告書—平成11年度』羽曳野市埋蔵文化財調査報告書46
- ・森村健一2006「12・13世紀における閩南沿海窯系白磁碗から龍泉窯系青磁碗へ」『吉岡康暢先生古希記念論集 陶磁器の社会史』桂書房



第6図 溝01の須恵器



第7図 溝01出土土器



第8図 遺構面・溝・土坑・柱穴出土土器

# 写 真 图 版



溝01出土須恵器



南区（北から）



南区（南から）



南区柱穴群（東から）



南区P5（南から）



南区P9（西から）



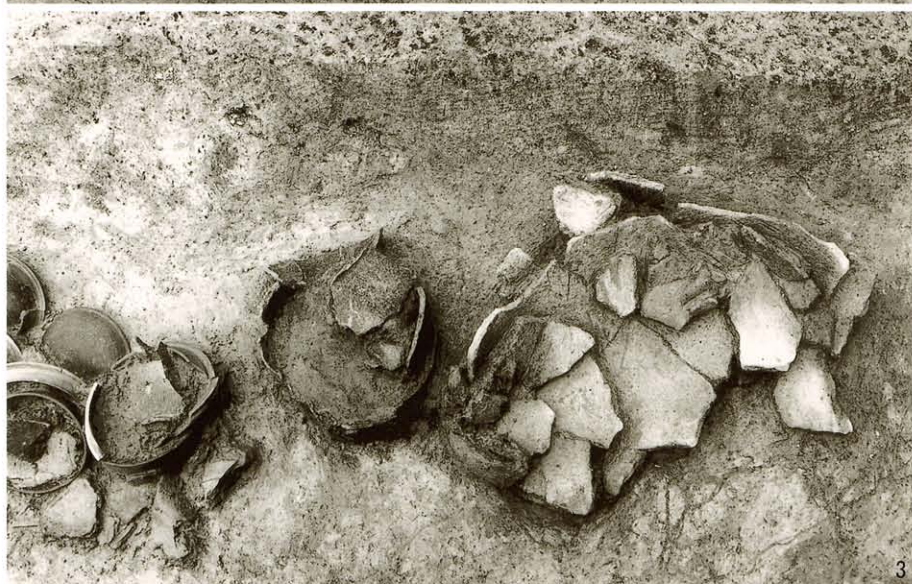
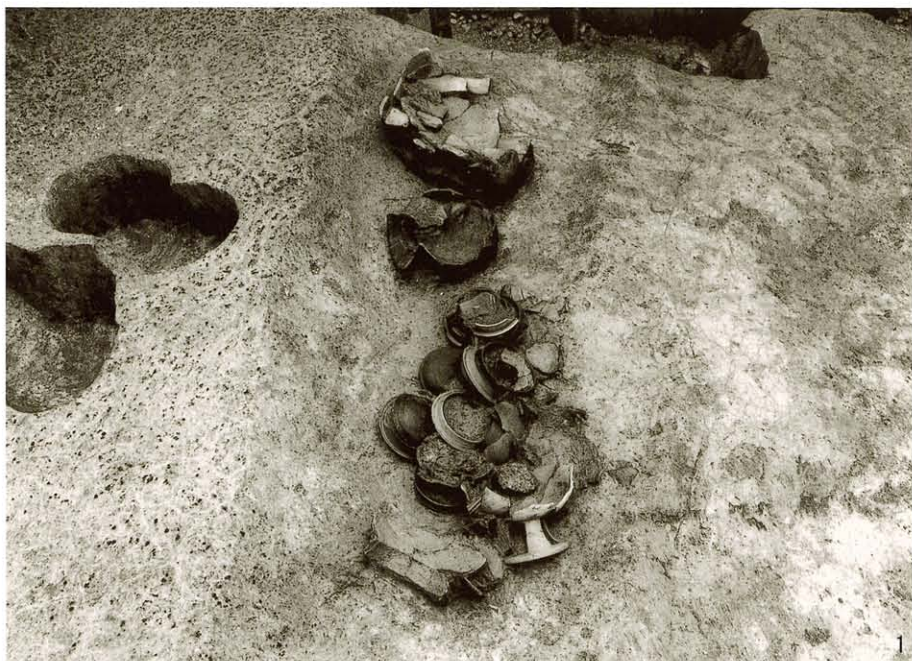
北区（北から）



北区溝01断面 a-a'（北から）



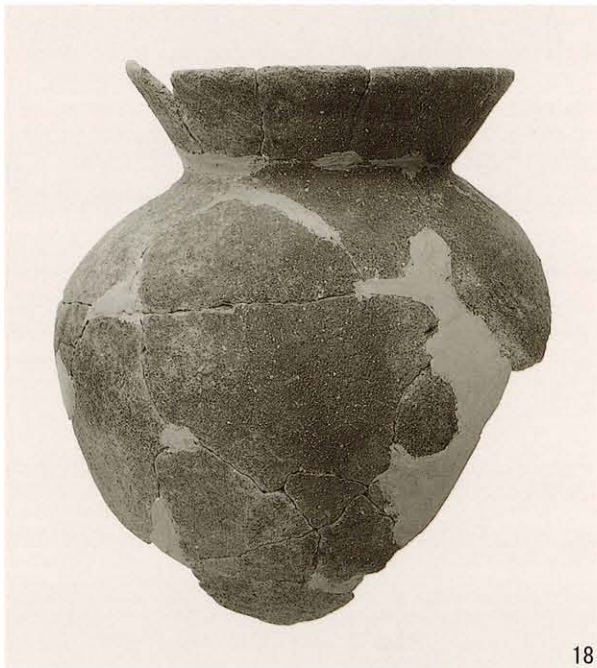
北区溝01土器集中地点断面 b-b'（北から）

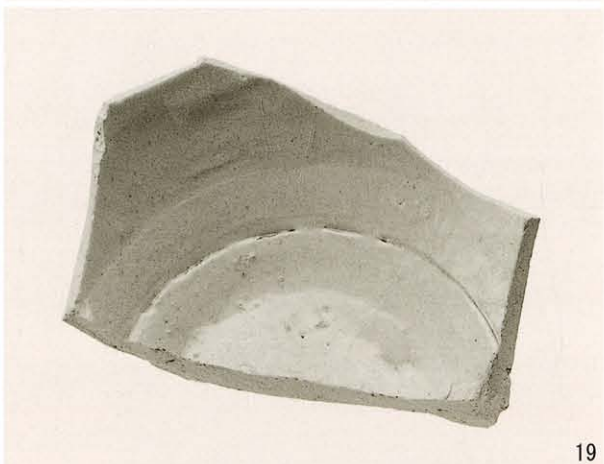


1 北から 2・3 西から









# 報告書抄録

ふりがな	しまいずみみなみいせき
書名	島泉南遺跡
副書名	
巻次数	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2007-2
編集著者名	小山田宏一
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL06-6941-0351 (代表)
発行年月日	2008年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
所収遺跡名	所在地							
しまいずみみなみいせき 島泉南遺跡	おおさかふ ほんのし 大阪府羽曳野市 島泉9丁目	27222	198	34度 34分 17秒	135度 34分 59秒	2007年1月16日 ～ 2007年2月8日	40 m <sup>2</sup>	一般府道島泉伊賀 線歩道整備工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島泉南遺跡	集落	古墳時代	溝	須恵器・土師器	須恵器・土師器は5世紀前半の資料である。
		平安時代末から鎌倉時代	柱穴 土坑	瓦・黒色土器・瓦器・ 白磁・埴輪	
要約	古墳時代の溝、平安時代末から鎌倉時代の集落跡（柱穴、土坑）を検出した。 古墳時代の溝は、水路ではなく区画溝である。5世紀前半の須恵器・土師器が出土した。 平安時代末から鎌倉時代の集落は13世紀に廃絶し、その後は耕作地になる。				

大阪府埋蔵文化財調査報告 2007-2

## 島泉南遺跡

---

発行 大阪府教育委員会  
〒540-8571  
大阪府中央区大手前2丁目  
TEL 06-6941-0351(代)

発行日 2008年3月31日

印刷 (有)ウェイク  
〒582-0001  
柏原市本郷5丁目7-8

